

現段階の世界と日本の労働運動を、どうとらえるか

——東京土建運動方針の意義との関連で

東京学習会議 江口 健志

はじめに——本報告の課題

- 現段階の世界と日本の労働運動を把握する視座、問題提起
- コロナ問題と労働運動
- 改めて東京土建運動方針の積極的意義をとらえ返す。
- 書記の役割を現代社会の広い視野から考える

1 現段階の情勢をどう見るか

(1) コロナと世界、日本社会

- 現代日本の構造問題が、コロナをとおして噴出
- 危機管理対応が脆弱な社会
- 公衆衛生 保健所の削減
- 医療提供体制 公的病院の統廃合
- 非正規の増大(公務非正規の増大)
- 貧困・格差の拡大とコロナ問題
- 経済危機
- 新自由主義的構造改革の展開を批判的に総括すべき時期

(2) 1980 年代以降の新自由主義の嵐

高度経済成長の終焉と新自由主義の台頭
グローバリゼーション
その後の約 40 年間

(3) 現段階をどうみるか

- 新自由主義の破綻
 - ・格差・貧困化
 - ワーキングプア
 - ・医療・社会保障の解体
 - ・経済停滞
 - 「後期新自由主義」
 - 2008 年世界経済危機以後の情勢
 - グローバリゼーションの矛盾の噴出
- 移民排斥、極右の台頭。イギリスのEU離脱。トランプ政権。米中貿易摩擦

- 日本のアベノミクス
異次元金融緩和政策
- コロナ問題

（４）現段階の下での世界と日本の労働運動への視点

多様な資本主義

産業別労働組合運動の歴史の蓄積の違い。福祉国家的伝統の違い

日本の位置を考える

２ 資本からの攻撃と労働組合運動の困難

（１）新自由主義による労働組合攻撃の特徴

- 新自由主義の考え方の特徴 市場論

「市場メカニズムを歪める」労働組合への攻撃。集团的団結論の否定

「戦後労資妥協」「戦後合意」の破壊

労働者保護規制の破壊

（２）現段階の特徴

- アメリカ

産業空洞化

基幹産業労働組合の困難（自動車産業など） → トランプ台頭の背景

格差・貧困化の広がり

- ヨーロッパ

緊縮政策

産業別労働組合の弱体化、企業別組合の広がり イギリス

グローバル競争の下での、ドイツにおける産業別労働協約体制の揺らぎ

移民排斥・極右台頭によるヨーロッパ社民の混迷（日本との比較）

（３）日本の特殊の困難

非正規の増大 労働者の４割

自活型非正規の増大

日本型雇用の縮小

企業別組合がこの状況に対応できず。企業別組合の弱体化

大企業労組の停滞、屈服

春闘の敗北

ストライキの激減

産業別組合の伝統の弱さ 企業社会

3 世界の労働運動、再生への芽

(1) ヨーロッパにおける新自由主義への抵抗

○ヨーロッパにおける反緊縮運動と労働運動

福祉国家の遺産を守る運動

○ドイツ

ドイツにおける労働時間規制の取り組み。労働時間柔軟化とのたたかい

○イギリス

社会的労働運動への萌芽

○産業別労働協約の拡張適用の経験(フランスなど)

※※産別労働運動の蓄積 ⇒賃金や労働・生活条件は、個々の企業内の労使関係のなかで決められるべきものではなく、産業的広がり、国民経済的広がりをもった社会的基準に基づいて決められるべきだ、そして労働組合はそうした社会的機能を果たすべきだ、という社会的合意が労働運動の蓄積のなかで培われてきた。

(2) アメリカ労働運動の意義

○社会的労働運動

非正規組織化。移民労働者の組織化

リビングウェイズ運動

○2008年世界経済危機後の労働運動の新展開

ウォールストリート占拠運動

最賃闘争 F F 15 \$ 運動 自治体を拠点に

職場の組織化

教員のストライキ 公共サービス再生の試みと労働運動

社会運動と労働運動との結合

サンダースの台頭

4 日本の労働運動 新たな芽

(1) 春闘の継続

世界的に見てユニークな運動

（２）連合をどうみるか

- トータルに見る必要
- 内部矛盾
内需型産業とグローバル産業。内部矛盾
- コミュニティユニオン
- 教育、公務関係の労働組合
護憲派、野党共闘の一翼を担う場合も。
- 社会性の追求
J R 西日本労組 安全性の追求
- 政策制度闘争
全国で展開

（３）産別労働運動への模索——産業別労働協約の取り組み

- 全港湾
- 建交労
運輸関係（トラックなど）での地域的な集団交渉の経験
- たかのゆり労働協約の経験
エステユニオン。社会運動、世論を背景に。「社会的交渉力」
- 東京土建の重要な位置

（４）新自由主義に抗する労働運動の模索

——企業の枠を越えた共通ルール形成、横断的規制への実践

- 公共分野
 - ・自治労連
 - ・公務公共一般背景としての公務非正規労働の増大
- 職種別結集
- 医労連
夜勤規制の取り組み
地域医療を守る闘い（統廃合反対闘争など）
産別最低賃金の取り組みへ
- 福祉保育労
福祉労働者の処遇改善をめざしたストライキ闘争の意義
- 自交総連
タクシー規制緩和反対闘争
ライドシェア反対闘争
連合系との共同行動

○成果主義と闘う

中小企業労働運動

生活給の労働世界 J M I T U の経験

＊社会的規制と労働運動

（５）社会的賃金闘争の経験

○最賃闘争

時給 1500 円運動の意義

エキタスの役割

自民党議連 最賃闘争の社会的共鳴盤

○公契約運動

＊社会運動と労働運動とのダイナミックな結合関係

○社会的労働運動と結合した産別運動のあり方

最賃闘争→業種別最賃運動へ、という回路

5 憲法と労働運動

（１）戦後労働運動と 9 条。平和運動と労働運動

安保闘争の経験

平和と民主主義運動と、戦後労働運動

企業の枠を超えた連帯運動、政治闘争

世界的に見て、日本の労働運動の独自の位置。世界的にもユニークな伝統

その伝統は、今でも生きている。改憲阻止の運動へ継承

（２）地域労働運動— 9 条と 25 条の結合

○戦争法廃止運動、改憲阻止、野党共闘の経験

○野党共闘における地域労働運動の積極的役割

安倍改憲阻止の共同。同時に共闘のなかに 25 条の論理を入れる地域労働運動

・岩手県労連

県立病院統廃合反対闘争の経験。復興闘争。反 T P P の共同

・新宿区労連

○平和運動から賃金闘争へ、社会的賃金闘争

○地域労働運動における東京土建の重要性

（３）２５条と社会保障闘争

企業社会からの脱却へ

賃金と社会保障で、人間らしく生活できる社会へ

基礎的社会サービス無償化の必要性

賃金依存度を下げる

６ 資本主義の民主的コントロールと労働運動の課題

（１）「資本主義の行き詰まり状況」 そのなかでの労働組合の役割

○資本主義の行き詰まり——2008年世界経済危機後の状況

○ポストコロナ社会を、どう展望するのか

新自由主義を乗り越える社会 利潤原理を超える社会

○変革の基本方向——資本主義の民主的計画的コントロール

○下からのコントロールの重要性。労組の役割

東京土建の産業政策闘争の意義

産業自治

（２）資本の民主的コントロールと協約闘争

民主的コントロールの一環としての産業別労働協約機構の重要性

（３）多様なコントロールの形態の追求を

○市場規制の回路は多様。

○政治的コントロールも重要

政治的規制をつくりだす下からの労働運動、社会運動の力

最賃・公契約運動の意義

○産別労働協約、交渉機構の構築をそのなかに位置づける。

○社会運動と結合する意義。産業別労働運動と社会運動の結合により、産別規制を再構築する課題

（４）東京土建の可能性

専従書記の役割の大きさ。以下の視点を自覚的に堅持していく必要

○産業

○地域・コミュニティの視点

○社会性の追求。社会的労働運動

○社会的共同の要。社会運動といわゆる保守層との連帯の要（改憲阻止への地域の砦）